

# 子ども主体の学級づくりを 本物の生活単元学習の 授業づくりから

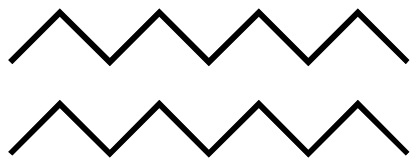
みやぎ・ひまわりの会

丹藤万祐子・佐々木美咲  
千葉 雅弘

土曜の会 in みやぎ

2025.05.10





# 今日の話題

- みやぎ・ひまわりの会について
- 山王小学校と特別支援学級について
- 実践1『あおぞらパークで遊ぼう』
- 実践2『ボタンアート～山王小学校～』
- 実践3『塩ビスケットをつくろう』
- 1年間の実践を振り返って

# みやぎ・子ども主体の 学校生活づくりを学ぶ会

現在メンバー：21名  
(休会中1名・特別会員3名含む)

## 活動

- ・奇数月第1土曜日 午前中  
(土曜の会に合わせて開催)
- ・塩竈市や多賀城市の公民館等で
- ・実践や近況の報告を中心に

## メンバー所属 (特別会員除く)

|              |    |
|--------------|----|
| 小・中学校 特別支援学級 | 7名 |
| 小・中学校 通常の学級  | 2名 |
| 特別支援学校       | 7名 |
| 元教員          | 1名 |
| 元保育士         | 1名 |



「太陽」が子どもで  
「ひまわり」は特別支援教育を学ぶ教員



# 多賀城市立山王小学校



令和5年に学校創立150周年を迎えた。  
児童数850名を超え、教職員60名ほど。  
令和5年度・6年度の2年間、千葉が校長を務めた。

## 特別支援学級

**令和5年度 6学級 27名**

知的2学級11名、自閉情緒2学級13名、難聴2名、弱視1名

**令和6年度 7学級 31名**

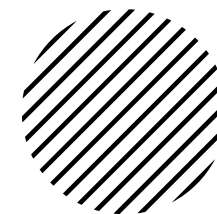
知的2学級16名、自閉情緒2学級11名、難聴2名、弱視1名、  
**病弱1学級1名（市内で初の医療的ケア児の受け入れ）**



多賀城創建記念  
TAGAJO 1300th Anniversary  
724 - 2024

多賀城は「賀(よろこ)び多き城」と東北の安寧を願ってつくられた城  
宮城県の名の由来の一つ

# 子ども主体の学級づくりへの歩み



## 千葉着任

▲知的学級の担任の一人から「**今年は『生活単元学習』やりません**」と言われる

## 教育課程の見直し

- 2つの学級で合同で行う単元を年間計画に配置
- 一部、帯状の日課に

## 実践②

### ボタンアート～山王小学校～

- ボタンを使って置サイズの絵を描く。デザインも子供たちと相談して

## 令和7年度に向けて

- 学級づくりを『**継続**』できるように学級編制と担任配置を行う
- 千葉退任

令和5年  
4月

令和6年  
3月

4月

7月

9月

令和7年  
1～2月

3月

## 学級編制会議

- 「知的学級は上学年・下学年で分けたい」という案に対して「**2つの学級で合同学習ができるように**」と指示

## 実践①

### あおぞらパークで遊ぼう

- 大きなすべり台を作って、遊ぶ本格的な生活単元学習「はじめの一步」

## 実践③

### 塩ビasketを作ろう

- 初めての一般の方への食べ物の販売
- 学習参観日、研究会の千葉大会等で販売



# あおぞらパーク で遊ぼう

千葉秀雄先生の  
実践を参考に

令和6年  
7月9日～18日

## ○単元における願い

- ・『あおぞらパーク』で遊び方を工夫したり、遊びのルールを学んだりしながら、存分に遊びを楽しんでほしい。
- ・みんなで遊び場を作り上げる経験や交流学級の友達を招待する活動などを通して、達成感や自己有用感を高めてほしい。

本単元は、改築工事のため空教室になった2つの教室を利用し、工事用足場とコンパネなどで作った大きなすべり台とマットやミニハードルなどで作ったサーキットで構成した『あおぞらパーク』で存分に遊び、交流学級の友達も遊びに招待しようというもの。

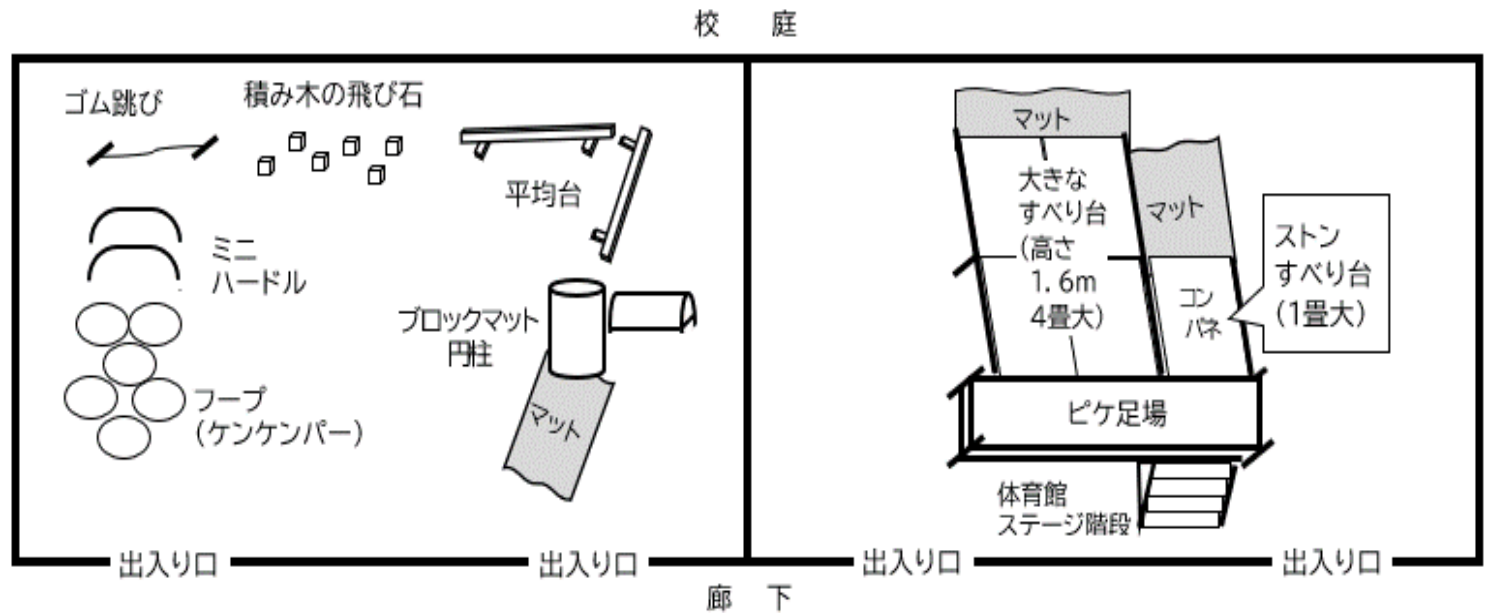




# 実践の概要①

| 月/日  | 曜 | 小単元         | 主な活動内容                   |
|------|---|-------------|--------------------------|
| 7/ 9 | 火 | あおぞらパークを作ろう | 体育館からマット等運び、サーキットを作る。    |
| 7/10 | 水 |             |                          |
| 7/11 | 月 |             | すべり台の組み立てを行う。            |
| 7/12 | 水 | あおぞらパークで遊ぼう | すべり台やサーキットで遊ぶ            |
| 7/16 | 木 |             |                          |
| 7/17 | 金 | 交流の友達を招待しよう | 交流学級の友達を招待。遊び方を説明し一緒に遊ぶ。 |
| 7/18 | 火 |             |                          |

## ①あおぞらパークを作ろう



ビケ足場で作った櫓が置かれた遊び場で、業務員さんに手伝ってもらいながら、コンパネに2×4の角材をネジ止めや板磨きを体験。

すべる面の支えとなる**跳び箱**や櫓に昇りやすくする**体育館ステージ**の階段など、大きくて重いものも全員で手分けして運ぶ。隣の教室には、マットやミニハードル、ブロックマットなどを運び込みサーキットを作る。

この他、看板やチラシ作成なども行い、遊び場への期待を高め、一つの目標に向かって協力し意欲的に活動。

⇒【自分たちで遊び場を作った気持ちに】

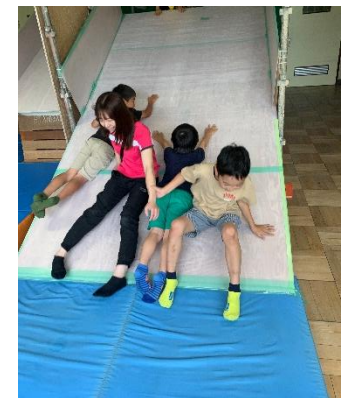


# 実践の概要②

## ②あおぞらパークで遊ぼう



完成した滑り台を見て「早く滑りたい!」と目を輝かせた。最低限のルールを確認し、最初だけ6年生から順に滑り、その後は教師からの指示はなく自由に滑って遊ぶ。順番を守り、上学年の子が下学年の子の手を引き手伝う姿、友だちと横並びで滑ったりうつ伏せで滑ったりと様々な滑り方で楽しむ。サーキット遊びに夢中になり、何度も巡りながら汗をびっしょりかく様子も。自分の好きな遊び方を見つけ、存分に遊んだ。遊びの中で友達と衝突することがあっても、話し合い、我慢や譲り合うことで解決する力が育まれた。





# 実践の概要③

## ③交流の友達を招待しよう

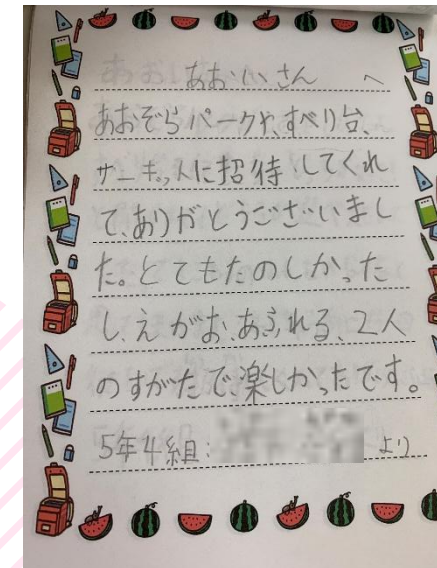
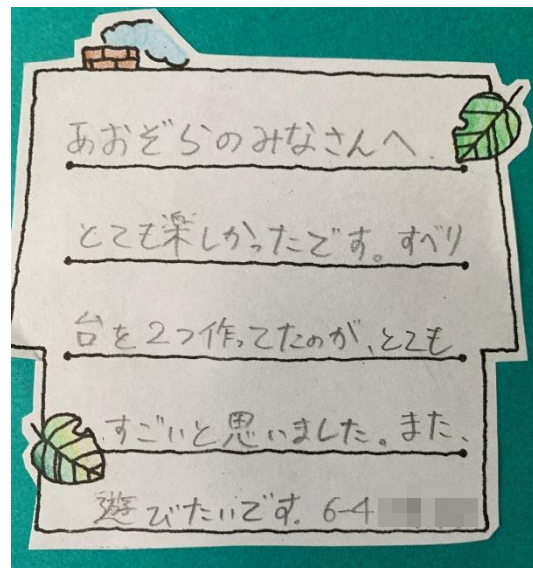
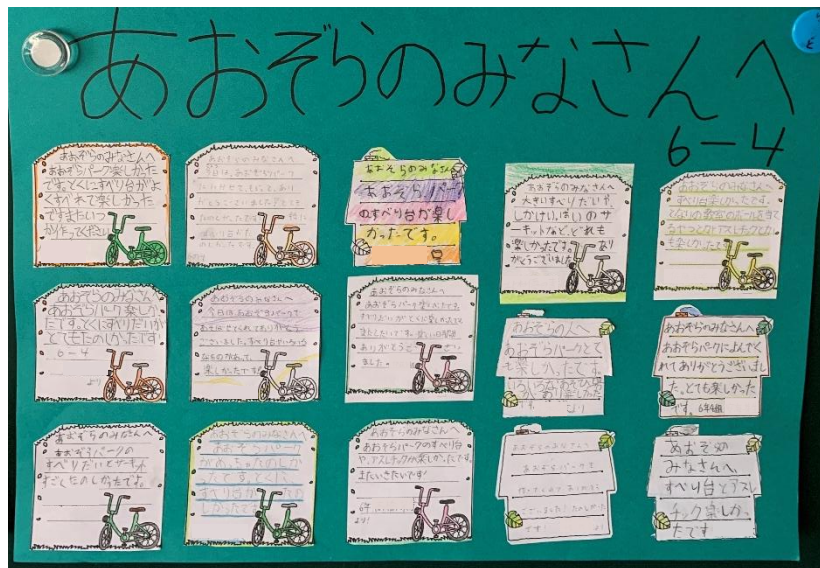


『あおぞらパーク』で遊ぶ様子を見て、他の学級の子どもたちから「僕たち、私たちも遊びたい!」と声上がり、交流学級の友達を招待することに。

招待状の渡し方やルール説明の練習を重ね、自分の交流学級の友達が来てくれた子は、友達の前に立ち、ルールやより楽しく遊ぶ方法など自信をもって説明。すべり台やサーキットの実演も好評で、笑顔があふれた。

交流学級の友達と一緒に遊ぶことで親睦が深まった。

手紙やプレゼントももらい、「あおぞら学級ってすごいね」と称賛され、子どもたちの自信につながった。





# 子どもたちの姿

## 『Canva』を覚え、友達と遊べた大谷さん（4年）

それまで集団活動が難しく、担任も悩むほどだった大谷さん。この単元で『Canva』を使ってチラシ作りに励み、学級の友達に賞賛され、自信を持てた。遊びでは、友達と手を取って滑り、会話するなど関わる様子も見られた。友達の名前を初めて呼び、仲間意識が芽生えた。家でも滑り台の話をした。保護者曰く「学校の楽しかった話を聞くのは初めて」

山形県の  
安部遼平先生の  
実践を参考に



## 順番を守って遊べるようになった奥川さん（2年）

日々の遊びで一番じゃないと怒る奥川さん。電動ドライバーでの組み立てでも一番に呼ばれずに大泣きし、落ち着くまでに45分間。遊びが始まり、当初は横入りで喧嘩も。そこで、みんなが楽しく遊べるための方法を子どもたち同士で話し合い。「せっかく作ったすべり台、仲良く遊ぼう、喧嘩してる時間がもったいない、譲り合う、順番は守るなど」たくさんの意見。譲り合いや順番を守る大切さを学び、以後は落ち着いて遊べるように。普段の遊びでのトラブルも格段に減り、放課後デイでも「一番じゃなくても怒らなくなってきた」との家庭からの連絡。年度末、次年度頑張ることを聞かれ、「順番は守ること!すべり台で勉強した!」と話し、担任は感涙。



## 教室に入ることができるようになった菊田さん（1年）

体育館に入れず入学式に出席できなかった菊田さん。入学式後も、教室に入ることができず廊下や隣の校長室に来ることが度々。しかし、すべり台の組み立てやサーキットの準備には友達と一緒に参加。出来上がったすべり台、サーキットで笑顔で遊ぶ姿が毎日。その後、教室で友達と一緒に過ごせるように。







# 『あおぞらパークで遊ぼう』のまとめ

## ○保護者・交流学級担任から

- ・電動工具も使うことが初めてだったので、良い経験になりました。
- ・毎日、「滑り台楽しかった」と言って帰ってきます。朝には、「今日も滑り台楽しみ。」と言って朝の準備を早くしていました。
- ・子供たちが、「楽しかった。もっと遊びたい。」と口々に話していました。
- ・6年生が無邪気に遊ぶ姿を見ることができました。気分転換に良い時間になりました。
- ・遊び方を説明したあおぞらの児童に、「がんばったね。すごいね。」と、声が出ていました。

## 【成果と課題】

- 子どもたちに強烈なインパクトを与えた遊びの経験⇒子どもたちの生活に大きな変化
- 遊びの中でのトラブル⇒楽しく遊ぶためのルールや順番の学習を遊びの中で
- 大きなすべり台やサーキット⇒友達との関わり方を促し、広がりへ
- 交流学級の友達を招待し一緒に遊ぶ⇒友達からの称賛⇒かかわりの広がり・自信に
- ▲場所やビケ足場の確保      ▲木材やプラダン(購入するための費用や保管場所)
- ▲遊びにどのような「テーマ性(ストーリー)」を持たせるか



# 『ボタンアート ～山王小学校～』

塩釜三小での  
実践を参考に

令和6年  
9月5日～27日

## ○単元における願い

- ・一人一人が分担の仕事や準備・片付けの活動に精一杯取り組み、みんなで力を合わせて制作し、ボタンアートを完成させてほしい。
- ・ボタンアートや完成した作品展示等を通して、達成感や自己有用感を高めてほしい。

本単元は、あおぞら学級児童全員が力を合わせて、洋服の端布（はぎれ）からボタンを取り外し、色毎に選別し、その様々な色のボタンで絵を描くボタンアートで、山王小学校をイメージした畳1畳ほどの作品を作り、学習発表会で展示しようというもの。

## 完成写真『ボタンアート～山王小学校～』





# 実践の概要①

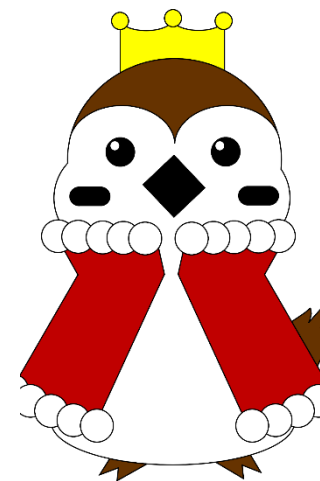
| 月/日  | 曜 | 小単元           | 主な活動内容                                |
|------|---|---------------|---------------------------------------|
| 9/ 5 | 木 | ボタンアートに挑戦しよう  | ボタンアートを知り、どのような『山王小学校』に表現したいかアイデアを出す。 |
| 9/ 6 | 金 | ボタン外しをしよう     | 洋服の端布からボタンを取る。                        |
| 9/ 9 | 月 | ボタンを選別しよう     | 色や大きさごとにボタンを選別する。                     |
| 9/11 | 水 | 下絵を描こう        | 板に下絵を描き、色を塗る。                         |
| 9/12 | 木 |               |                                       |
| 9/13 | 金 |               |                                       |
| 9/17 | 火 | ボタンを貼ろう       | 下絵に合わせ、同じ色のボタンを貼る。                    |
| 9/18 | 水 |               |                                       |
| 9/19 | 木 |               |                                       |
| 9/20 | 金 |               |                                       |
| 9/24 | 火 |               |                                       |
| 9/25 | 水 |               |                                       |
| 9/26 | 木 |               |                                       |
| 9/27 | 金 | 作品の前で記念写真を撮ろう | 完成を祝って記念撮影をする。                        |

[ボタン外し] から [ボタン貼り (前半)] までは、1組と2組に分かれて活動し、仕上げの活動を一緒に行う。

／ 「『ボタンアート』で作品を」谷藤先生の願い  
 支え 塩三小のノウハウ＋ウエス会社の協力

## ①ボタンアートに挑戦しよう

- ・ボタンアートって何？ ⇒ 見本提示
- ・作品のテーマは？  
⇒ やっぱり『山王小』でしょ  
どんなデザインにする？  
⇒ 各自が『山王小』のイメージを出して、それを組合せ



## ④下絵を描こう

- 【デザイン決定】
- ・山王小マスコットキャラクター『すずめ王』を中央に、自然豊かな四季を表現しよう
  - ・『すずめ王』は半立体的に
  - ・担当する色を分担し、ボタンを貼りつける板に全員で色塗り



# 実践の概要②

## 単元後半は【ボタン外し・選別】+【ボタン貼り】

### 【今日の作業の確認と材料と道具の準備】

- ・実物とテレビモニタを見て、本時の流れを確認する。
- ・自分で道具と材料を用意する。

### ②ボタン外しをしよう

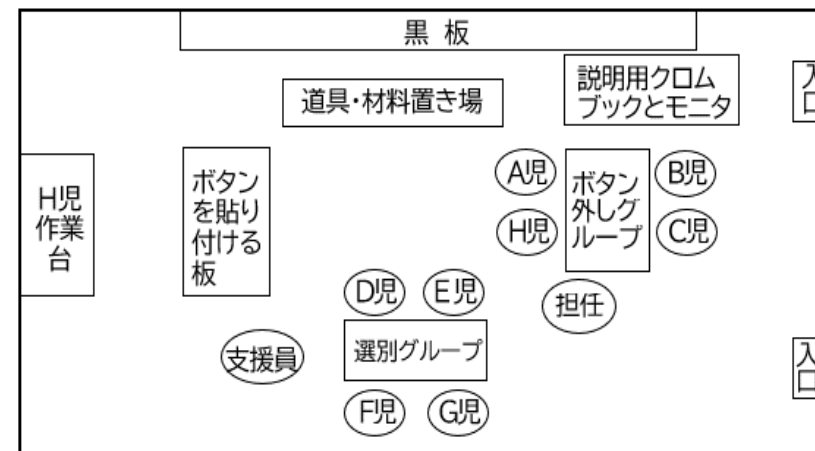
- ・端布についたボタンをはさみで切り取る。
- ・切り取ったボタンを、ボタン入れの容器に入れる。
- ・ボタンを取り終えた端布は、ゴミ入れ袋に捨てる。

当初は担任が分量を決め端布をカゴに入れて渡したが、慣れてくると自分で頑張りたい量を決めて取り組んだ。友達がたくさんボタンを取る様子を見て、「負けたくない」と、手先があまり器用ではない児童がやる気を高め、苦手なはさみの使い方を自立活動でも練習し、日増しに量が増えた。



### ○場の設定

\*1組だけで活動する場合



### ③ボタンを分別しよう

- ・ボタンを入れる色別容器に、選別しながら入れる。
- ・糸がついたボタンは、糸をリッパーで切り取る。

色見本の付いた仕分け容器を用意したことで、色の間違いは皆無。しかし、単調な作業に手が止まることも。「なくなったら終わり」と最後の見通しが持てたこと、ボタン貼りが始まり、色毎に分けることの意味を感じて意欲が向上、一定の時間集中して取り組むことができた。





# 実践の概要③

## ⑤ ボタンを貼ろう

- 自分の分担色のボタン入れとボンドを用意する。
- ボタンの裏にボンドを付け、板の下絵に貼る

ボタン貼りは、大きな下絵の書かれた板を囲んで、全員で行った。取り組みやすい色やボタンを貼る場所を割り当て、順番を分かりやすく説明したこと、自分たちでデザインを決めたことで、当初から児童の意欲は高かった。担任や支援員も児童の近くで作業をしながら、賞賛や助言をした。終盤、進み具合に差が出ると、自分から友達を手伝う姿や済んでいないところを「やりますか？」と言う児童が見られ、それぞれ児童の良さを生かしながら学級のみんなで1つの作品を仕上げ、担任が求めていた理想の姿となった。



**完成 作品は学習発表会の会場に展示  
(現在は、校長室の廊下の掲示板上に)**



# 子どもたちの姿

## 見通しを持てたことで友達と一緒に同じ活動できた吉本さん（6年）

吉本さんは6年生。初めての作業や新しいことに取り組むことが苦手で、失敗することを恐れ、不安感を激しい癩癢や乱暴な行為で表してしまい、5年間、集団で友達と一緒に活動する姿は皆無だった。そこで、担任が横で一緒に行いながら少ない量からボタン取りを始め。かごに入っている分は必ず終わらせることができた。ボタンの量で自分が頑張ったことが分かり、「今日で100個だよ。」など達成感を得られる発言が増え、外したボタンの総数を口にしながら意欲的に取り組んだ。後半のボタンの貼り付けは、友達に先駆けて一人で担当する部分にボタンを貼るの吉本さんであったが、後半に入ったある日、吉本さんは友達がボタンを貼りに移動してきても、その場を離れずボタン貼りを続けた。活動に見通しを持ち安心でき、柔らかな笑顔で友達と一緒に同じ活動することができた初めての日になった。



## ボタン取りチームでリーダー的な役割を果たした長嶋さん（3年）

夏休み前まで活動への不安から切り替えができず、放課後に学校隣接の児童クラブにも担任の付き添いを求めた長嶋さん。元々器用で理解力も高く、ボタン取りの手順を覚えると、次から次へとボタンのついた端切れに手を伸ばし、ハサミを使ってボタンを外した。全部のボタンを取り終わると、端切れの端から端まで2本の指でなぞり取り残しがないことを確認。これには大人も脱帽。友達に積極的に声を掛けて引っ張っていくわけではないが、ボタン取りに取り組む姿勢がチームのやる気につながっていった。長嶋さんの本来持っている力が存分に発揮され、その後の生活に変化をもたらした単元であった。





# 『ボタンアート～山王小学校～』のまとめ

## ○保護者から

- ・「毎日、「今日はボタン〇個になったよ。」と報告してくれます。楽しみにしているようで朝の準備も早いです。これまで図画工作のような制作は苦手としていたので、こんなに一生懸命取り組んでいることに驚きです。」
- ・「こんなに作品が大きいと思いませんでした。子供たちの頑張りが伝わってきます。」

## 【成果と課題】

- 初めてのボタンアート。塩三小のノウハウとウエス会社の協力 ⇒ 充実した活動に
- 同じ活動の繰り返しで見通しが持ちやすい ⇒ 集中して取り組む姿、意欲の向上
- たくさんの友達や先生からの「すごいね。」「頑張っているね。」⇒ 自信や達成感に
- ▲実施時期⇒地区作品展に合わせて ▲実践の継続⇒デザイン、掲示場所 etc.

11月21日  
ウエス会社  
社長さんをお招きして  
感謝の会を開催



## ボタンアート「山王小学校」ができるまで

あおぞら学級では、子供たち一人一人が自分の仕事に責任をもって取り組んでほしいということ、あおぞら学級全員で協力して一つの作品を仕上げる喜びを感じてほしいということを願って、9月、10月の生活単元学習でボタンアートに取り組みました。ボタンアートの題材は「山王小学校」。山王小学校の四季折々の風景をイメージし、山王小学校のマスコットキャラクターである「すずめキング」を描いた作品を仕上げました。今回使用したボタンはウエス加工会社『ハシモト』様から無償で提供いただきました。

### ① 下絵描き

発砲スチロールでできた「すずめキング」や、ベニヤ板に描かれた絵に、ペンキで色を塗り、下絵を描きます。



### ② ボタンはずし・分別

布きれから、はさみやリッパーを使ってボタンを外し、黒・白・青・赤・茶色など、色ごとに分別します。



### ③ ボタン貼り

下絵の描かれたベニヤ板と発砲スチロールでできた「すずめキング」に、下絵と同じ色のボタンを、木工用ボンドで貼っていきます。



ボタンアート  
「山王小学校」完成！



山王小学校あおぞら1・2組

# 『塩ビスケットをつくろう』

塩釜三小での  
実践を参考に

令和 7 年  
1 月 28 日～ 2 月 17 日

## ○単元における願い

- ・一人一人が分担の仕事や準備・片付けの活動に精一杯取り組み、みんなで力を合わせて塩ビスケットを作ってほしい。
- ・家族や先生に食べておもらったり、頒布会を通して、達成感や自己有用感を高めてほしい。

本単元は、あおぞら学級児童全員が力を合わせて、塩ビスケットを作り、先生方や学習参観で来校した保護者に頒布しようというもの。初めて、一般の方へ頒布する試み。





# 実践の概要①

| 月/日  | 曜 | 日程計画                                         | 行事等     |
|------|---|----------------------------------------------|---------|
| 1/28 | 火 | ビスケット作りについて知ろう                               |         |
| 1/29 | 水 | ビスケットのロゴを作ろう                                 |         |
| 1/30 | 木 | ↓                                            |         |
| 1/31 | 金 | パスタマシン・クリップシーラーの練習をしよう                       |         |
| 2/ 3 | 月 | ビスケットの作り方を知ろう                                | 卒業式練習開始 |
| 2/ 4 | 火 | 【調理】ビスケットを作ろう①<br>準備→計量→生地作り→型抜き→(焼き)→後片付け   |         |
| 2/ 5 | 水 | 【調理】ビスケットを作ろう②<br>ラッピング (ラベル貼り→袋詰め)          |         |
| 2/ 6 | 木 | 先生たちに感想を聞こう                                  | 5年ミシン   |
| 2/ 7 | 金 | ロゴのシールを貼ろう                                   | 6年ミシン   |
| 2/10 | 月 | 頒布の準備をしよう (担当決め・セールストーク練習)<br>【調理】ビスケットを作ろう③ |         |
| 2/12 | 水 | 頒布練習 (当日の流れで)<br>【調理】ビスケットを作ろう④、ラッピング        |         |
| 2/13 | 木 | 【調理】ビスケットを作ろう⑤、ラッピング                         |         |
| 2/14 | 金 | 【販売】参観日に校内で頒布しよう                             | 学習参観    |
| 2/17 | 月 | 売り上げを計算しよう                                   |         |

※【調理】は午前中に実施、それ以外は午後に実施予定。2月20日に追加の調理を実施

## ビスケット作りについて知ろう ～ビスケットの作り方を知ろう

- ・クッキー作りの経験 ⇒ 初めての塩ビスケット作りにも意欲
- ・ビスケットのラベルは一人一人の絵をもとにして
- ・機械の扱いを事前に練習して ⇒ スムーズな活動に

## 頒布準備 (ラッピング・ラベル貼り・練習)

【1袋30グラム・50円で頒布】

- ・計量はデジタルはかりで
- ・ラベル貼りはガイドに合わせて
- ・大きな学校⇒頒布は分担して
- ・セールストークを繰り返し練習



## 先生たちに感想を聞こう

- ・家庭科室が使えない日の活動として
- ・先生たちから聞いた意見で、作る数量の調整を  
⇒好評だった『砂糖入り』を多めにして

# 実践の概要②

## 【調理】ビスケットを作ろう

### ○塩ビスケットの材料

|           |       |
|-----------|-------|
| 小麦粉       | 220g  |
| 塩         | 5g    |
| ベーキングパウダー | 12g   |
| マーガリン     | 45g   |
| 牛乳        | 100ml |

### ◎支援の工夫

- ・時計やタイマーを使用して見通しを持って活動できるように。
- ・何度も同じ工程でビスケットを作成し、一人ひとりが見通しを持って作成できるようになった。

#### 計量



#### 粉ふるい



#### 生地練り



#### 生地のばし



均一に生地をのばすために  
【パスタマシンの使用】

#### 穴あけ



一度に均等に穴を  
開けるために  
【剣山の使用】

#### 型抜き



- ・作っていく中で役割を変えて作っていく、児童の特性に合った役割を固定 ⇒ 効率UP
- ・牛乳と塩をムラなく混ぜるために【シェーカーの使用】

## 頒布会・売上計算

学習参観日に3か所に分かれて頒布活動  
⇒ 練習の成果+自分の作ったビスケット ⇒ 短時間で『完売』





# 子どもたちの姿

## お菓子屋さんになりたいという夢を見つけた長山さん（5年）

元々調理が得意だった長山さんは、この単元で「お菓子屋さんになりたい」という夢を見つけた。毎日クロームブックで美味しいビスケットの作り方を調べ、メモして担任に教えてくれる中で、読めないカタカナや漢字に出会い、文字の大切さに気づく。以前は文字の読み書きに強い抵抗があり、「字なんか読めなくてもいい」と学習に意欲がなかったが、この単元で国語の学習にも前向きに取り組むように。保護者から連絡帳には、「初めて家で宿題以外の勉強をしてる。すごいです!」と。



## 頒布会で大きな声を出して呼び込みを行った佐山さん（5年）

人前で大きな声で話すのが苦手で聞き取るのがやっとだった佐山さん。塩ビスケット作りでは高学年として活躍。そこで培った自信と自分たちが作ったビスケットをたくさん売りたいという思いから、学習参観や職員室前での頒布会では、大きな声を出して呼び込みを行った。この姿を見た保護者の目には涙が。この単元でのビスケット頒布での経験をもとにスーパーなど店で働く人になりたいという夢を見つけた。

## 食わず嫌いだったビスケットを食べられるようになった山本さん（2年）

食わず嫌いが多い山本さん。塩ビスケットにイチゴジャムをのせることで食べられるように。その後はジャムなしでも食べ、迎えに来た母に嬉しそうに報告。後日、母から「これまで食べなかったものに一口挑戦することが増えた」と連絡があり、学校でも給食の野菜を一口食べたり、学級みんなで作ったチョコバナナでチョコレートが食べられたりと変化が見られた。友達と協力して作った経験が、食への関心を高めた。





# 『塩ビスケットをつくろう』のまとめ

## ○保護者・頒布会購入者から

- ・「作り方を聞くと、嬉しそうに教えてくれました。妹から『お姉ちゃん美味しいよ!』と言われ、嬉しかったです。」。両親だけではなく、兄弟の中でも話題の一つになっていて嬉しかった。
- ・「家でも塩ビスケット作りを楽しみにしていて、タブレットでレシピを調べて報告してくれます。帰ると、『みんなとできたよ!生地を20分こねたよ!』と、できたことを嬉しそうに報告してくれます。」
- ・元気いっぱい呼び込みで好印象でした。・笑顔で接客してくれて嬉しかったです。
- ・パッケージは色々な種類があってすべてかわいくて、ビスケット歯ごたえがあって美味しかったです。家族みんなていただきました。初めてでしたが、これからも継続されるといいと思います。
- ・通常学級に在籍し学習面で心配がある子の父です。ビスケットを買い、チラシで工程や活動を見せてもらいました。息子のことを思ったつもりで通常学級に居させましたが、山王小のあおぞら学級なら息子を入れたいと思いました。教員をしていて実際的な活動の大切さと難しさを理解していますが、子どもたちのために活動を考え、実践している山王小は本当に素晴らしいです。

## 【成果と課題】

- 初めての塩ビスケット作り。塩三小のノウハウ + 3人の担任の工夫と研究⇒ 充実した活動に
- 同じ活動の繰り返しで見通しが持ちやすい⇒ 集中して取り組む姿、意欲の向上
- 家庭や頒布会でのリアルな反応。たくさんの人からの「すごいね。」「美味しいよ。」⇒ 自信や達成感に
- ▲実施時期と場所⇒ 他学年との家庭科室使用の調整 ▲短い消費期限⇒ 保健所への申請
- ▲現金(売上)の扱い⇒ 学校で頒布を行うことに対する校内の逆風

2月21日  
千葉県で開催された  
日本生活中心教育研究  
会で頒布を行う  
(約100袋完売)





# 1年間の実践を振り返って ①-1

## 子どもたちの変容（見られるようになった姿）

### とにかく学習に身が入るようになった

⇒45分集中できる子が増え、交流学級での学習に渋らずに行けるようになった子も。

### 「ただ学習する」だけではなく「目的を持って学習するようになった」児童が増えた

⇒「お金の計算をしたいから、足し算をしたい!」とか、「メニュー表のカタカナとか漢字読めるように、勉強を頑張りたい!」とか、将来働いた時に「外国の人が来るかもしれないから外国語やらなきゃ!」などと言って勉強し始める児童が増えた。

### あおぞら1・2組の全員が、登校を渋らず、「学校楽しい! 楽しみ!」と言って登校するように

⇒まさに「今日に満足し明日を楽しみに待つ生活が送れてる」のではないかと…嬉しくなりました。



# 1 年間の実践を振り返って ①-2

## 見通しを持てたことで友達と一緒に同じ活動をする事ができた吉本さん（6年）

- ⇒5年生までなかなか集団の中で活動することが難しかった吉本さん。これまで行事の前に行っていた「何ができそうか」のメモ作りを、生活単元学習でも取り入れ、事前に見通しが持てるように流れや活動内容を説明した後に、「どのような形であれば参加できそうか」を相談しながら書き出した。あおぞらパークでは、「最初に一人で楽しむ」から「最後の10分はみんなと一緒に」とメモの内容が変わり、交流学級の6年4組とは最後まで一緒に楽しむことができた。
- ⇒調理活動でも、初めは担任とみんなよりも先に自分の仕事に取り組んでいたが、クッキー作り、しおビスケット作り、学級でのパンケーキ作りと回数を重ねていくごとに、みんなと一緒に取り組む、最後まで完成を一緒に待つことができるようになった。
- ⇒初めてのことで、周りの音などに過敏に反応することが多かったが、あおぞらの友達と様々なことを経験する中で、好きなことや自分ができることを実感できるようになったのではないかと感じる。
- ⇒1年を通して行った生活単元学習の経験から、同学年の児童と一緒に行事や活動に参加できるようになったり、日々の学習に積極的に取り組んだり、学級の友達との関わりを楽しんだり、集合写真が撮れるようになったりと、たくさんの「できた」の経験につながったのではないかと考える。



# 1 年間の実践を振り返って ②ー1

## 保護者からの声（生活単元学習の素晴らしさや大切さへの共感が…）

### 令和6年度、4年生からあおぞら学級に入った佐川さんの保護者

⇒初めはせっかく支援学級に入れたのに勉強もせず、畑したりカフェしたり、すべり台で遊んだりと不満があった。でも、生活単元学習を通して、「もっと計算が早くなりたい」、「時計を読めるようになりたい」など学習意欲が出てきて、家でもドリルを買って勉強するようになってきた。

### 「教室に入ることができるようになった菊田さんの保護者

⇒教室入ってみんなと色々な経験ができたこと、山王小学校のあおぞら学級にいられて良かったです。

### 障害受容ができていなかった大谷さんの保護者

⇒できないことも多かったですが、何ならできるのかを親身になって考えてくださり寄り添って下さりありがとうございました。寄り添っていただいたことが私も嬉しかったです。また、『キャンバ』を覚え、家でもたくさん話をしてくれるようになりました。将来はデザイン会社で働きたいと話しています。

# 1 年間の実践を振り返って ②-2

## 人前で大きい声が出せず保護者も本人も心配していた佐山さんの保護者から

⇒ 小学校生活4年までは特に不満はなかったですし、丁寧に見ていただいていたのですが、本人が学校が楽しいと帰ってくることはなかったです。でも、今年一年、**とにかく「毎日楽しい」と帰ってくる姿**を見て感謝しかありません。息子の可能性を見出してもらったり、あらゆることを経験させてもらったりしました。校外学習では1人で注文してラーメンを食べられたことが何より嬉しかったです。今まで外部の人に何かを話したり、注文したりすることができませんでしたが、みんなと行って、先生たちのご協力があったからこそできたんだと思います。その経験から**今では家族で出かけても注文できるようになりました**。また、私たち親もなかなか挑戦させる勇気がなかったのですが、**息子を信じて挑戦させることの大切さにも気がついた一年**でした。

本当に「ありがとうございます」の言葉では足りないくらいです。来年度も素晴らしい先生方のもとで学ばせていただけることを心より祈っております。

息子を信じ丁寧にご指導いただきありがとうございました。

(原文のまま)





# 1年間の実践を振り返って ②ー3

## 見通しを持てたことで友達と一緒に同じ活動できた吉本さんの保護者から

⇒「家でもこれまでは、学校で楽しかったことを聞いても、「分からないよ。」と怒ってしまうことが多かったですが、今年は楽しかったことや学校での出来事を尋ねると、「ボタン〇個取ったよ。」「ビスケット作り混ぜるの頑張ったよ。」「落ち着いてできたよ。」と嬉しそうに報告してくれたり、まだ帰ってきていないときは、LINEで自分から報告してくれたりすることもありました。これまでの5年間では、できたことが少なく、褒めてあげるときは、「〇〇は難しかったけど、△△は頑張ったね。」が多かったのですが、今年は毎日できたこと、頑張ったことがあり褒めてあげることができました。好きなことや頑張ったことを家族だけではなく、病院や美容院で話していたことに驚きました。交流学級の先生や友達と関わることもできたことも、驚きでした。」



# 1年間の実践を振り返って ③ー1

## 子ども主体の学級づくり・生活単元学習に取り組んで（丹藤）

### ◎子供たちの自己肯定感の高まり

- ▲これまで教科を重視した学習が多く、個別に用意された課題に取り組むことが多かった。国語や算数など教科だけを見ると、「僕は平仮名が難しいから作文が書けない。」「僕はまだ1年生問題だ。」「みんなより進んでいない。」など、できないことや難しいことばかりに目が行きがち。交流学級の中で学習していても、教えてもらう立場に。
- 生活単元学習を通して、生活に必要な事柄を体験的に学習し、家庭の中や毎日の生活に還元できるものも多く、目で見て達成感を得ることができる。子供たちの得意な部分をさらに伸ばすことにも。
- あおぞらパークやボタンアート、しおビスケットの頒布を通して、たくさんの友達や先生から、「すごいね。」「頑張っているね。」と声を掛けてもらい自信につながる様子を近くで見ることができた。
- 楽しい活動やたくさんの「できた」の経験を経て、教科の学習にもさらに前向きになり、「計算が早くなりたいから、筆算の練習をする。」「掛け算ができるようになりたい。」「自分で作文を書けるようになりたいから、最初は自分で書いてみるね。」と自分から目標を持って学習に取り組む子供たちが増えた。

### 学級の友達という仲間意識の高まり

- あおぞら全員で一つのゴールに向かって学習したことは、周りの友達を意識する良い経験に。個々の目標を達成するために努力し、それぞれの役割を果たしたときに、あおぞらとしての『ゴール』が達成される経験（ボタンアート完成、頒布会大成功など）をした子供たちは、**周りの友達を気にする発言やしぐさが増えた**。活動と一緒にいき目標を達成する「仲間」に。
- 「上級生のようにになりたい。」「下級生に教えてあげられるようにになりたい。」と、**個々でも周りを意識する姿が増えた**。 28



# 1年間の実践を振り返って ③ー1

## 子ども主体の学級づくり・生活単元学習に取り組んで（佐々木）

### ◎意欲の向上

- ・以前は指示を待って行動する児童が、自分から準備を始めたり、役割を積極的に引き受けたりする姿が増えた。生活単元学習だけではなく、係活動や日々の学習などでも「自分から」行動することが増えた。

### ◎コミュニケーションの増加

- ・活動中に教師や友だちとの会話が增え、日々の学習の中でも「ありがとう」や「手伝って」といった基本的なやり取りが自然と行えるようになった。活動を通して成功体験を積み、自信を持って生活することができた。
- ・なかなか友達と関わるができなかった子供たちも、様々な活動での関わり合いを通して普段の生活でも積極的に関われるようになった。「友達できた」と話す子供もいた。

### ◎生活力の向上

- ・実際の買い物や調理を通して、「お金の使い方」「手洗い」「身支度」「道具の使い方」など、日常生活に必要な基本的な力が身についた。
- ・失敗を経験してもすぐに気持ちを切り替えて再挑戦する姿も見られ、自己肯定感の高まりも感じられた。

# 1年間の実践を振り返って ③ー2

## 実践をする教師を支える立場から

### 本格的な生活単元学習に取り組んだ経験がない先生たちが、実践できるようになるには？

▲1人で知的学級を担当し、前任者から引き継いだ教育課程で保護者の考えや学校の方針等への考慮が求められる状況。子ども主体の教育理念や生活単元学習の魅力、できる状況づくりの必要性を聞いても、「実際にやることは難しい。」と思われてしまう。

⇒ 本物の生活単元学習の授業づくりには、しっかりとした教師を『支えること』が必要。

### 子ども主体の学級づくりができるようになるには？

▲学級全員で同じことに一定期間・継続して取り組む『生活単元学習』の経験がない知的学級担任。特別支援学級での主流は、『教科学習』と『個別学習』。⇐ これが子どもたちが求めている教育活動なのか？

⇒ 魅力的で、やりがいのある単元、見通しが持ちやすい日程計画・帯状の週日課、個に応じた支援の手立て、仲間とともに取り組む活動、これらの「できる状況」を整えられた単元を教師が実践して、繰り返すことで、おのずと子どもたちは主体的に生活し始めることを、あおぞら学級の1年間の実践が証明してくれた。

子どもたちが「今日に満足し、明日を楽しみに待つ生活」となった1年間の取組であった。



# 子ども主体の学級づくりを 本物の生活単元学習の 授業づくりから

みやぎ・ひまわりの会

丹藤万祐子・佐々木美咲

千葉 雅弘

土曜の会 in みやぎ

2025.05.10



ご清聴ありがとうございました